

「（仮称）新球技場整備事業」に係る論点
に対する考え方

1 事業の必要性

(1) ギラヴァンツ北九州について

・ J1 クラブライセンスの付与基準の達成見込み（特に財務基準について）

1 クラブライセンスについて

(1) 背景

Jリーグ各クラブの経営基盤の強化、競技環境、観戦環境、育成環境の強化・充実を図ることによる競技力の向上とともに、クラブが日本のスポーツ文化を成熟させる『社会資本』としての役割を担うことを目的に、Jリーグクラブライセンス制度が2013年から導入された。

(2) 内容

5つの基準（「競技基準」・「施設基準」・「組織運営・人事体制基準」・「法務基準」・「財務基準」）について審査が行われ、基準を満たしていない項目については、制裁や是正措置が課せられることとなる。

(3) 財務基準に関して

次のいずれかに該当する場合は、Jリーグライセンスが交付されない。

- ① 3期連続で当期損失を計上した場合（判定は2012年度決算より開始）
- ② ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在、純資産がマイナス（債務超過）である場合（判定は2014年度決算より開始）

よって、当該基準の適用が開始される2016年度については、

- ① 2012～2014年度の3年間を対象として、3期連続で当期純損失を計上。
 - ② 2014年度決算で、純資産がマイナス（債務超過）。
- のいずれかの場合、Jリーグのライセンスが交付されないこととなる。

2 ギラヴァンツ北九州の財務状況
 (1) Jリーグ参入からの財務状況

(単位：千円)

年度	2010	2011
広告料	117,204	176,459
入場料	63,225	77,432
その他	315,064	266,723
収入計	495,493	520,614
チーム人件費	169,127	225,924
事業費及び一般管理費	323,680	358,059
支出計	492,807	583,983
営業外収益・税など	△ 1,362	△ 2,002
当期損益	1,324	△ 65,371
繰越利益剰余金	△ 113,814	△ 179,185
資本金	137,450	142,850
純資産合計	23,636	△ 36,335

※(株)ギラヴァンツ北九州株主総会資料より抜粋

- ・財務規模は J2 平均 (約 10 億円) には届かないものの、徐々に拡大している。
- ・主な収入源である広告収入は堅調に伸びている。

(2) 2012 年度について (クラブからの聞き取り)

- ① 2011 年度は赤字決算であったが、2012 年度決算では広告料収入が前年度比約 40% 増加したことなどにより黒字が確定している。

これにより、2016 年度のクラブライセンス交付の審査に対して、「2014 年度決算時点で過去 3 期連続での純損失 (赤字) でない」という基準はクリアする。

- ② 2012 年度末時点における債務超過については、今後、単年度黒字を継続するとともに、小口株主等による資本の増強を図ることにより、今後 2 年間で債務超過を解消する予定である。

資本金については、会社設立時 (2008 年 10 月) から総額約 4,400 万円増加している。(年平均 880 万増加)

- ③ 財務規模も 2011 年度に比べ約 1 億 6 千万円増加し、約 6 億 8 千万円となっている。

(2) 市民説明の機会拡大及び市民意見の把握について

・ 年齢、性別等の属性ごとの賛否の状況

1 市民説明状況（評価調書 P7 より）

- ・平成 25 年 1 月末までの 1 年間で、自治会や、PTA・学校関係者等の社会教育団体に力点を置き、延べ 94 団体、3,056 人に対し、説明を行った。（1 回目の事業評価（平成 24 年 1 月末）時点から 36 団体 1,503 人の増）
- ・説明の際には、スポーツ観戦に伴う経済効果、ギラヴァンツ北九州がもたらす都市イメージの向上・地域の発信力、スポーツ文化の振興などの多面的な価値についても説明を行ったほか、市民の判断材料を増やすため、1 回目の公共事業評価終了後に策定した整備方針（平成 24 年 7 月）の内容としてコンセプトや事業手法など、説明内容を充実させた。
- ・今後も引き続き、様々な機会を使って、多くの市民に丁寧な説明を行い、理解をいただきながら、意見交換に取り組んでいきたい。

【参考】市民説明状況（1 回目の事業評価時点と現時点の比較）

	①1回目事業評価終了時点 (H24.1月末時点)		②今回 (H25.1月末時点)		増 (②-①)	
	団体	人数	団体	人数	団体	人数
自治会	9	233	15	457	6	224
まちづくり団体	11	313	13	359	2	46
社会教育団体	14	206	32	970	18	764
スポーツ団体	5	257	6	375	1	118
企業・商業団体	19	544	28	895	9	351
合計	58	1,553	94	3,056	36	1,503

2 アンケート結果 ※説明団体 94 団体中、アンケートを実施したのは 76 団体

【団体別】

	団体	人数				
			賛同	非賛同	わからない	無回答
自治会	13	327	189	109	24	5
まちづくり団体	10	215	154	39	20	2
社会教育団体	24	362	251	83	26	2
スポーツ団体	5	221	182	30	8	1
企業・商業団体	24	670	585	47	35	3
合計	76	1,795	1,361	308	113	13

【男女別】

性別	人数		賛同		非賛同		わからない		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	1,368	76%	1,090	80%	201	15%	68	5%	9	1%
女性	427	24%	271	63%	107	25%	45	11%	4	1%
合計	1,795	100%	1,361	76%	308	17%	113	6%	13	1%

【年代別】

年代別	人数		賛同		非賛同		わからない		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
20代以下	115	6%	86	75%	20	17%	9	8%	0	0%
30代	231	13%	177	77%	36	16%	18	8%	0	0%
40代	438	24%	353	81%	61	14%	23	5%	1	0%
50代	359	20%	294	82%	43	12%	19	5%	3	1%
60代	372	21%	257	69%	83	22%	28	8%	4	1%
70歳以上	233	13%	166	71%	52	22%	11	5%	4	2%
不明	47	3%	28	60%	13	28%	5	11%	1	2%
合計	1,795	100%	1,361	76%	308	17%	113	6%	13	1%

【団体別×性別】

団体別	団体数	合計人数	性別	人数		賛同		非賛同		わからない		無回答	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自治会	13	327	男	212	12%	134	63%	67	32%	9	4%	2	1%
			女	115	6%	55	48%	42	37%	15	13%	3	3%
まちづくり団体	10	215	男	164	9%	122	74%	27	16%	13	8%	2	1%
			女	51	3%	32	63%	12	24%	7	14%	0	0%
社会教育団体	24	362	男	172	10%	120	70%	43	25%	7	4%	2	1%
			女	190	11%	131	69%	40	21%	19	10%	0	0%
スポーツ団体	5	221	男	187	10%	159	85%	22	12%	5	3%	1	1%
			女	34	2%	23	68%	8	24%	3	9%	0	0%
企業・商業団体	24	670	男	633	35%	555	88%	42	7%	34	5%	2	0%
			女	37	2%	30	81%	5	14%	1	3%	1	3%
合計	76	1,795	男	1,368	76%	1,090	80%	201	15%	68	5%	9	1%
			女	427	24%	271	63%	107	25%	45	11%	4	1%

【団体別×年代別】

団体別	団体数	合計人数	年代	人数		賛同		非賛同		わからない		無回答		
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
自治会	13	327	18%	～20代	8	2%	5	63%	3	38%	0	0%	0	0%
				30代	19	6%	9	47%	8	42%	2	11%	0	0%
				40代	40	12%	26	65%	11	28%	3	8%	0	0%
				50代	31	9%	16	52%	10	32%	4	13%	1	3%
				60代	105	32%	55	52%	41	39%	8	8%	1	1%
				70代～	116	35%	75	65%	33	28%	6	5%	2	2%
				不明	8	2%	3	38%	3	38%	1	13%	1	13%
まちづくり団体	10	215	12%	～20代	5	2%	1	20%	3	60%	1	20%	0	0%
				30代	52	24%	39	75%	7	13%	6	12%	0	0%
				40代	28	13%	26	93%	2	7%	0	0%	0	0%
				50代	35	16%	27	77%	3	9%	5	14%	0	0%
				60代	54	25%	37	69%	9	17%	7	13%	1	2%
				70代～	34	16%	20	59%	12	35%	1	3%	1	3%
				不明	7	3%	4	57%	3	43%	0	0%	0	0%
社会教育団体	24	362	20%	～20代	60	17%	46	77%	11	18%	3	5%	0	0%
				30代	37	10%	23	62%	10	27%	4	11%	0	0%
				40代	108	30%	73	68%	28	26%	6	6%	1	1%
				50代	46	13%	33	72%	11	24%	2	4%	0	0%
				60代	44	12%	27	61%	12	27%	4	9%	1	2%
				70代～	45	12%	37	82%	5	11%	3	7%	0	0%
				不明	22	6%	12	55%	6	27%	4	18%	0	0%
スポーツ団体	5	221	12%	～20代	12	5%	12	100%	0	0%	0	0%	0	0%
				30代	32	14%	26	81%	5	16%	1	3%	0	0%
				40代	57	26%	50	88%	5	9%	2	4%	0	0%
				50代	48	22%	38	79%	8	17%	1	2%	1	2%
				60代	49	22%	35	71%	10	20%	4	8%	0	0%
				70代～	22	10%	21	95%	1	5%	0	0%	0	0%
				不明	1	0%	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%
企業・商業団体	24	670	37%	～20代	30	4%	22	73%	3	10%	5	17%	0	0%
				30代	91	14%	80	88%	6	7%	5	5%	0	0%
				40代	205	31%	178	87%	15	7%	12	6%	0	0%
				50代	199	30%	180	90%	11	6%	7	4%	1	1%
				60代	120	18%	103	86%	11	9%	5	4%	1	1%
				70代～	16	2%	13	81%	1	6%	1	6%	1	6%
				不明	9	1%	9	100%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	76	1,795	100%	～20代	115	6%	86	75%	20	17%	9	8%	0	0%
				30代	231	13%	177	77%	36	16%	18	8%	0	0%
				40代	438	24%	353	81%	61	14%	23	5%	1	0%
				50代	359	20%	294	82%	43	12%	19	5%	3	1%
				60代	372	21%	257	69%	83	22%	28	8%	4	1%
				70代～	233	13%	166	71%	52	22%	11	5%	4	2%
				不明	47	3%	28	60%	13	28%	5	11%	1	2%

【参考：アンケート用紙（様式）】

『新球技場』説明会に関するアンケート

本日は説明会に参加いただき、ありがとうございました。

今後の参考にさせていただきますので、以下の三つの質問にご回答くださるよう、ご協力をお願い致します。

問1：説明の内容・話し方などは、わかりやすかったですか？（記号に○）

ア	よくわかった
イ	おおむね、わかった
ウ	少しわかりにくかった
エ	とても、わかりにくかった

問1で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きします。

わかりにくかったのは主にどの部分ですか？

問2：新球技場の計画について、どのようにお考えですか？（記号に○）

ア	賛同する
イ	どちらかといえば賛同する
ウ	どちらかといえば賛同しない
エ	賛同しない
オ	わからない

問2で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きします。賛同しないと考える主な理由は

何ですか？

問3：あなたについてお伺いします（さしさわりのない範囲での記入で結構です）

性別	男 ・ 女	年齢	歳	居住地	北九州市内の方 (区)	市外の方 (市・町)
----	-------	----	---	-----	---------------------------------------	--------------------------------------

新球技場や本日の説明会について、ご意見・ご提案など何でも自由にご記入ください

2 事業の有効性

(1) 新球技場のコンセプトの具体化について

- ・ 駅からの回遊性
- ・ 施設周辺等を活用したにぎわいづくり
- ・ サッカーファンや家族連れなど、多様な人が楽しめるスタジアム提案

1 新球技場のコンセプト

※「(仮称)新球技場整備事業の整備方針」(H24年7月公表)から関係箇所抜粋

【コンセプト その1】

みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム

(1) 人が集まるスタジアム

◇ランドマークとしての魅力ある施設デザイン

- ・ 周辺施設と整合感があり、ウォーターフロント・工場群など迫力ある周辺景観とも調和が取れた、魅力的な施設デザインを採用し、「北九州らしさ」を演出
- ・ 新幹線・船舶などからの車窓・船窓景観を意識したデザインに配慮し、ランドマークとしての存在感を内外に発信

◇海ちか立地を活かした眺望・親水空間づくり

- ・ 関門海峡に面する立地特性を活かした、市民の憩いの場やウォーターフロントとしての景観スポットの整備



周辺施設



周辺景観



親水空間イメージ

◇試合開催日以外の日常利用の促進

- ・ 景観スポット・デートスポットなど、人が集まる仕掛けにより日常的な集客を目指す。



景観スポット例
(ブルーウイングもじ)



デートスポット例



市民への芝生開放例

(2) 街のにぎわいづくりに向けた連携

◇周辺施設との連携

- ・スタジアムと既存の周辺施設との連携・ネットワーク化により、小倉駅を中心とする小倉都心部を一体としてにぎわいを創出。
- ・試合開催日は、スタジアムや周辺施設・たまり空間などで、わくわく感・お祭り感を感じるイベントを企画。

◇回遊性の強化

- ・スタジアムへの多様な歩行者アクセスルートの確保や快適な歩行空間の整備。わかりやすいサイン計画により、小倉駅新幹線口エリアの回遊性及び小倉駅小倉城口エリアとの連携の強化。



試合開催日イベント例
(日産スタジアム)



サイン設置例
(Shonan BMW スタジアム平塚)



アクセスルート
(小倉駅新幹線口)



アクセスルート・たまり空間①
(AIM のガレリア)



アクセスルート・たまり空間②
(あさの汐風公園)



アクセスルート・たまり空間③
(西日本総合展示場 本新館間)

【参考：小倉都心部を一体としたにぎわい創出に活用できる事業】

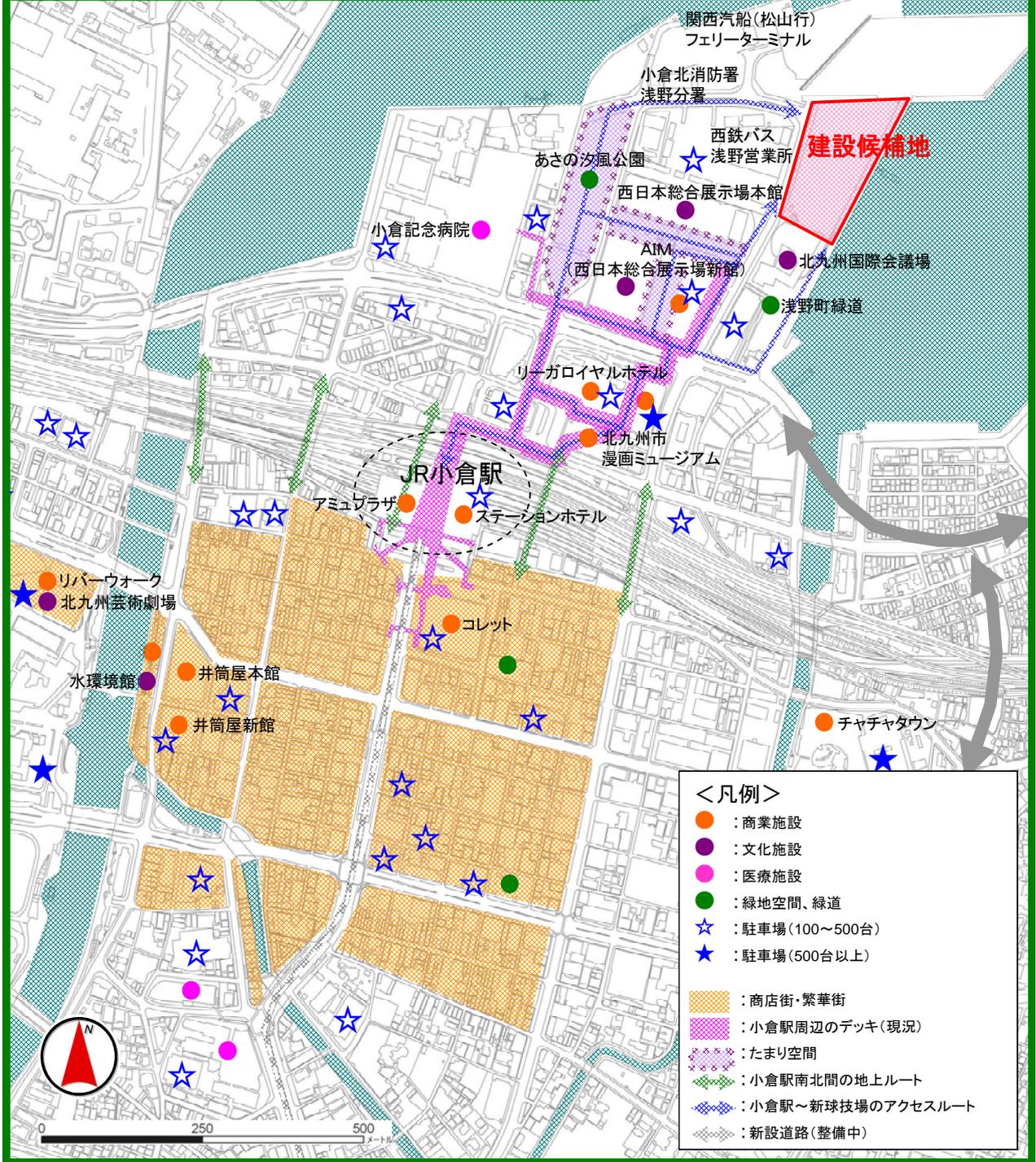
〔小倉都心部共通駐車券事業〕

小倉都心地区に訪れた人に対して、買い物の利便性を高め、もっと街なかに出かけやすく、滞留時間を少しでも多く持っていただくため、商店街や百貨店で、一定額以上の買い物をした方に共通駐車券を発行する事業

- ・参加駐車場・・・19箇所（合計 4,693台）
 - ・参加店舗・・・83店舗
(ファッション、グルメ、生活用品など)
- ※H25.3月現在



建設候補地及び周辺状況



【参考：他スタジアムの事例紹介】

〔Jリーグスタジアム〕



レストラン ※スタンド下
(ノエビアスタジアム神戸)



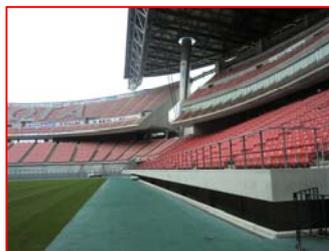
健康教室
(日産スタジアム)



会議室貸し出し
(フクダ電子アリーナ)



貴賓席
(豊田スタジアム)



スタンドの急傾斜
(豊田スタジアム)



観客席上部からの俯瞰
(埼玉スタジアム2002)

〔MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島〕



寝ソベリア



びっくりテラス(焼肉)



外野砂かぶり席



鯉棧敷(畳敷き席)



テラスシート



パーティデッキ

【参考：本城陸上競技場での取り組み】

〔ファミリーシート〕

- ・メインスタンド A 席ホーム側
- ・小・中・高校生 1 名以上を含む 4 名で 3,000 円。
(5 人目からは大人 1,000 円、子供 500 円)

本城陸上競技場



(入場券価格)

券種		当日	前売り
S席 (指定席)		3,000円	2,400円
A席 (ゾーン指定)	大人	2,500円	2,000円
	小・中・高校生	1,500円	1,200円
B席 (ゾーン指定)	大人	2,000円	1,600円
	小・中・高校生(キラヴァンツサポーター)	夢パス	-
	小・中・高校生(AWAYサポーター)	1,000円	800円
C席 (ゾーン指定)	大人	1,500円	1,200円
	小・中・高校生(キラヴァンツサポーター)	夢パス	-
	小・中・高校生(AWAYサポーター)	800円	600円
ファミリーシート	メインスタンドA席ホーム側 (小・中・高校生1名以上を含む4名様)	当日販売はありません。	3,000円 5人目からは大人1,000円 子供500円

※未就学児は入場料無料です。

(2) PFI 事業としての案件形成の方向性について

・ PFI 事業者の参入意欲の喚起

1 これまでの取り組み

(1) 企業アンケートの実施

- ・平成23年度以降、4回に渡り、約50社を対象に企業アンケートを実施。
- ・アンケート実施時点における最新情報の発信にも役立っている。
- ・アンケートでは、大半の企業が、新球技場の施設検討の動向を把握しているなど、事業に興味を持っていることが伺える。

(2) 情報発信

- ・これまで、建設候補地や概算事業費などをまとめた基本方針（H22年11月）や、施設プランや事業手法などをまとめた整備方針（H24年7月）の策定時など、事業進捗の段階を追って、市ホームページをはじめ、報道機関へ情報提供、関係業界への説明会、企業アンケートの実施など、様々な機会を活用し、出来る限りの情報発信を行っている。

2 今後の取り組み

(1) 情報発信

- ・上記1（2）の取り組みを継続して実施する。
- ・最新情報の発信に努める。

(2) 参入意欲の喚起

① 今後の方策

PFI事業を実施する上での一般的な考え方に基づき、次の点に留意して、今後、事業スキームを構築していく。

- ・ シンプルな事業スキームの構築
- ・ 官民の適正なリスク分担の設定
- ・ 参加しやすい資格要件の設定
- ・ 適正な評価基準の設定 など

3 最近の事例紹介（Jリーグスタジアム）

（1）状況

- ・近年整備された3事例では、全て複数の入札参加者が見られる。
- ・事業への注目度や事業規模が大きいことから、各社の参入意欲は高いと想定している。

（2）事例

【事例－1：南長野運動公園総合球技場（長野市）】

- ・チーム名：AC長野パルセイロ（JFL）
- ・入場可能数：15,000人以上
- ・総事業費：約72億円
- ・入札年度：平成24年度
- ・供用開始：平成27年3月予定
- ・施設形態：球技専用（建替）
- ・入札方式：プロポーザル、設計施工一括発注
- ・入札参加業者数：5JV
- ・落札者：竹中・東畑・北信・千広・アーキプランJV
- ・落札価格：約72億円



【事例－2：等々力陸上競技場（川崎市）】

- ・チーム名：川崎フロンターレ（J1）
- ・観客席数：メインスタンド3,400席
⇒10,000席以上
- ・総事業費：約59億円
- ・入札年度：平成24年度
- ・供用開始：平成27年6月予定
- ・施設形態：陸上競技兼用（第1期改修）
- ・入札方式：総合評価一般競争入札、設計施工一括発注
- ・入札参加業者数：3JV
- ・落札者：大成・飛島・小川・沼田・日本設計JV
- ・落札価格：約59億円



【事例－3：長崎県立総合運動公園新陸上競技場（長崎県）】

- ・チーム名：V・ファーレン長崎（J2）
- ・観客席数：20,246席
- ・総事業費：約100億円（公園整備費含む）
- ・入札年度：平成22年度
- ・供用開始：平成25年3月
- ・施設形態：陸上競技兼用（改修）
- ・入札方式：総合評価一般競争入札
- ・入札参加業者数：第1工区 6JV
第2工区 4JV
- ・落札者：第1工区 清水・西海・長崎土建JV
第2工区 大林・谷川・野副JV
- ・落札価格：第1工区 31億円
第2工区 19億円
（その他設備工事、周辺整備工事など 50億円）



・ 事業者提案に求めるもの

1 コンセプトの実現に向けて

※具体的な要求水準の内容や落札者の決定基準は、今後、外部の有識者の意見を聞き決定していく予定。

(1) 施設整備に関する事項

①施設デザイン

- ・ 周辺施設との整合
- ・ ウォーターフロント・工場群など迫力ある周辺施設との調和
- ・ 「北九州らしさ」の演出
- ・ 海ちか立地の有効活用
- ・ 景観スポット、デートスポットとしての整備

②施設計画

- ・ スタンドとフィールドの近接
- ・ 屋根の設置
- ・ 観客席の傾斜角度（国内最高レベルの40度越え）
- ・ バラエティに富んだ観戦スタイル（シートのバリエーション等）
- ・ 高いホスピタリティ（ユニバーサルデザインへの配慮等）
- ・ 大型映像装置の設置
- ・ 強風対策
- ・ 躯体の塩害対策

③将来拡張計画との整合性の確保

- ・ 将来的な観客席の増設を見越した施設配置や構造
- ・ 拡張計画案の提示（施設の利用に影響を与えない増設工法など）

④環境への配慮

- ・ 太陽光発電装置の設置を見越した施設構造
- ・ 雨水の再利用
- ・ LEDの採用
- ・ 市内企業が有する省資源技術や設備の導入
- ・ リサイクル素材の採用
- ・ 木や花の植栽や壁面緑化など環境にやさしいイメージの演出

(2) 維持管理に関する事項

①天然芝の生育対策

- ・ 天然芝の日照・通風の確保および塩害対策

②防災施設としての活用

- ・ 既存の周辺施設、防災岸壁、ヘリポート、病院、ホテル等との連携
- ・ 避難場所や救援物資の保管倉庫としての活用

(3) 運営業務に関する事項

①グラウンド利用日における運営提案

※全体で年間 70 日程度のグラウンド利用を想定

- ・ラグビートップリーグやなでしこリーグなど、Jリーグ以外のプロスポーツや、サッカー、ラグビーの学生大会などの企画・誘致
- ・グランドゴルフ大会や幼児の芝生体験など、市民利用イベントの企画・誘致
- ・スタジアムや周辺施設、たまり空間などを活用した、試合開催日のイベント開催

②グラウンド利用日以外における運営提案

※日常的な活用や、オフシーズンのグラウンド利用に関する事項

- ・スタンド、コンコース、諸室などの市民や民間事業者への貸し出し
(例：スタンドを活用したパブリックビューイングや屋外映画上映会、壁面を利用したボルダリング、コンコースを利用した健康教室、会議室など屋内空間のレンタル使用など)
- ・グラウンドやスタンドを活用したコンサートの開催
- ・西日本総合展示場や国際会議場など、周辺施設で行われる大規模コンベンションとの連携策

③その他運営業務に関する提案

- ・AIM や西日本総合展示場、国際会議場など周辺施設との連携や、既存機能の活用による賑わいづくりの方策
- ・景観スポットやデートスポットとしての仕掛け作りと情報発信

【参考：同規模スタジアムの施設利用状況（H20 年度実績）】

	グラウンド利用			グラウンド以外の施設利用
	Jリーグ JFL	その他 ・ラグビートップリーグ ・市民球技大会 ・市民イベント等	合計	
ユアテックスタジアム仙台 (仙台市、1.97万人)	30日	40日	70日	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室など諸室の貸し出し ・屋内スポーツ施設の貸し出し ・映画上映会 ・スタジアムウェディング等
フクダ電子アリーナ (千葉市、1.85万人)	17日	22日	39日	
レベルファイブスタジアム (福岡市、2.26万人)	21日	24日	45日	
ベストアメニティスタジアム (鳥栖市、2.45万人)	21日	75日	96日	

3 事業の経済性・効率性

(1) 費用便益分析について

・費用便益分析の考え方など

1 基本的な考え方

分析にあたっては、国土交通省の「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」の考え方に沿って、旅行費用法（トラベルコスト法）を使用し、スポーツ観戦者の球技会場までの交通費やチケット代金を積み上げることで、スポーツを観戦することによる価値を便益として算定した。

今回は、「新球技場整備事業」に掛かる投資総額89億円によって生じる便益が対象であり、現在、本城陸上競技場で実施されているJリーグやラグビートップリーグを含む球技の試合や大会は、新球技場に全て移行することから、新球技場の観客全てを対象（例えば、Jリーグの試合であれば7,000人/試合）として便益を算定すべきと考えている。

【旅行費用法（トラベルコスト法）】

「施設利用者は施設までの移動費用をかけてまでも利用する価値があると認めている」前提のもとで、施設までの移動費用（料金、所要時間）を利用して施設整備の価値を貨幣価値で評価する手法。

$$\frac{B}{C} = 1.79$$

B = **・スポーツを観戦することによる便益**
(交通費+チケット代+時間価値)

C = **・施設整備費** (設計費、監理費含む)
・維持管理費 (賃借料、大規模修繕費含む)

